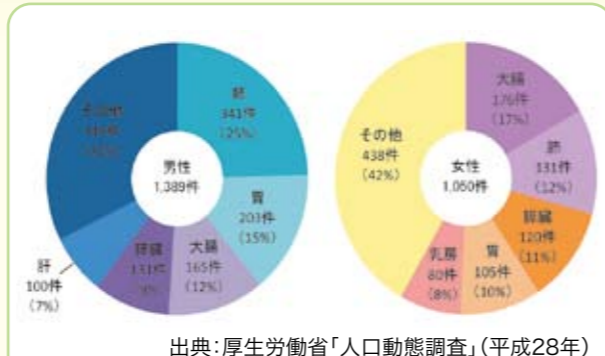


福井県におけるがんの状況

1 がんの死亡状況

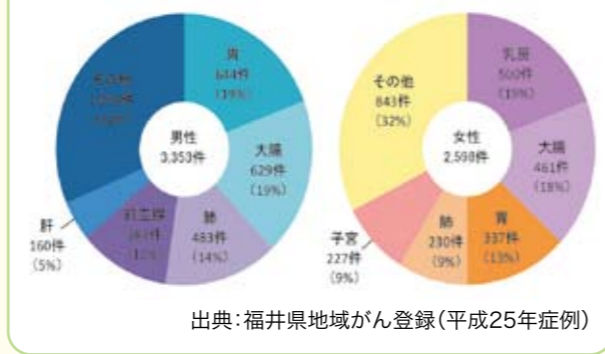
●福井県では、昭和55年以降、がんが全死因の第1位となっており、年間約2,400人以上の方ががんで亡くなっています。



2 がんの罹患状況

●男性のがんの罹患では、
①胃がん ②大腸がん ③肺がん
④前立腺がん の順に多くなっています。

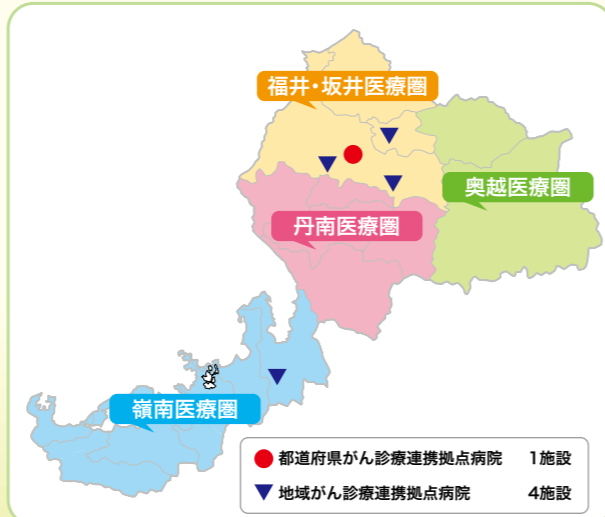
●女性のがんの罹患では、
①乳がん ②大腸がん ③胃がん
④肺がん の順に多くなっています。



3 県内のがん医療提供体制

●県内には国が指定する「がん診療連携拠点病院」が5病院あり、拠点病院を中心に、各地域におけるがん医療の維持向上、均てん化を推進するとともに、地域におけるかかりつけの医療機関などと連携を図りながら、県内のがん医療提供体制を構築しています。

●2011年3月に、県立病院に「陽子線がん治療センター」を開設し、肺がんや肝臓がんなどを対象に、副作用が少なく高い治療効果が期待できる先進的ながん治療を提供しています。



発行 平成30年3月
発行者 福井県健康福祉部健康増進課
〒910-8580 福井県福井市大手3丁目17-1
TEL:0776-20-0349 FAX:0776-20-0643



「第3次福井県がん対策推進計画」の概要

2人に1人ががんになる時代

がんの予防・早期発見・治療日本一 を目指して

計画期間 2018年度～2023年度

計画の策定にあたって

- 福井県では、2008年3月に策定した「福井県がん対策推進計画(1次計画)」に基づいてがん対策を推進し、がん予防・治療日本一を目指して、がんによる死亡者の減少やがん検診受診率50%超を目標にがん予防や検診体制の充実・強化などを進めてきました。
- また、2013年3月には、がん患者の就労を含めた社会的な問題などの新たな課題に対応するため、2次計画を策定し、がん医療体制および相談支援体制の充実などを進めてきました。
- さらに、2次計画を見直し、小児・AYA世代や高齢者などライフステージに応じたがん対策やがんとの共生など新たに見えてきた課題に対応するため、今後6年間の県のがん対策の基本的な方向性を明確にした3次計画を策定しました。

基本方針

- 1 がんを予防する対策の充実
- 2 がんを早期に発見する対策の充実
- 3 高度な医療が受けられる体制の充実
- 4 がん患者とその家族の苦痛を軽減する対策の充実
- 5 治療と職業生活の両立支援等に関する取組みの更なる充実

全体目標

- 1 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
- 2 患者本位のがん医療の実現
- 3 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

重点目標

- 1 成人喫煙率を12%に減少(2022年まで)
- 2 各がん毎に検診受診率50%
- 3 各がん毎に精密検査受診率90%
- 4 がん死亡率(75歳未満)を10%減少

全体目標

がんの予防・早期発見（検診）

●科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実

がん医療の充実

●患者本位のがん医療の実現

がんとの共生（患者支援）

●尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

分野別の取り組みと目標値

がんの予防

たばこ対策の推進

- 早期段階での喫煙防止・禁煙対策、たばこをやめたい人への支援
 - 学校において、医師などによる健康教室の開催
 - 禁煙治療ができる医療機関の情報提供、禁煙支援
- 受動喫煙のない環境づくりの推進
 - 公共施設や学校および医療機関の敷地内禁煙の推進
 - 飲食店などでの禁煙環境表示ステッカー掲示の推進



食生活や運動習慣の改善

- 適切な量の食塩、野菜の摂取
- ウォーキングやラジオ体操など運動の推進

がんの原因となる感染症の予防

- ピロリ菌検査や肝炎ウイルス検査の受診勧奨を強化
- 市町や教育機関、職域団体などと協力し、若い時期から正しい知識の普及啓発を強化

目標

- 成人喫煙率を12%に減少
 - 男性：35.9% ▶ 20.6%
 - 女性：8.2% ▶ 3.5%
- 生活習慣の改善
 - 食塩の摂取量減少、野菜摂取量の増加、歩数の増加

早期発見

がん検診および精密検査の受診勧奨と早期発見の徹底

- 受診歴や受診意向に基づく、対象者に合った効果的な受診勧奨の実施
- 未受診者に対し、受診勧奨センター（コールセンター）や検診機関医師などからの電話による個別勧奨の徹底
- 休日や外出時に立ち寄りやすい場所でのがん検診など、受診しやすい環境づくりを推進

がん検診の精度管理の充実

- どの検診機関でも共通した基準による精度の高い検診が受けられる体制の維持
- がん検診・精密検査の意義や有効性および不利益（偽陽性、偽陰性、過剰診断）を含めた正しい情報の普及

目標

がん種別	■検診受診率		各50%	■精密検査受診率		各90%
	H28年度	H35年度		H28年度	H35年度	
胃がん	33.5%			81.4%		
肺がん	74.0%			71.6%		
大腸がん	48.2%			76.0%		
子宮頸がん	42.0%			76.1%		
乳がん	47.3%			90.4%		

適正ながん医療体制の整備

がん治療の充実とチーム医療の推進

- がん診療連携拠点病院の機能強化
- 手術療法、薬物療法、放射線療法の維持向上
各治療を効果的に組み合わせた集学的治療や緩和ケアの推進
- 専門的な医療従事者の育成
- 陽子線がん治療センターの充実

小児がん・AYA世代のがん対策

- ※AYA(アヤ)世代…Adolescent and Young Adult「思春期と若年成人期(15~39歳)の世代」
- 小児・AYA世代が抱える課題(発育・妊娠・出産など)に対応できる長期フォローアップ体制の検討

高齢者のがん対策

- 拠点病院と地域の医療機関などの連携強化
- 患者や家族が希望する療養生活を送ることができる体制の整備

がん登録

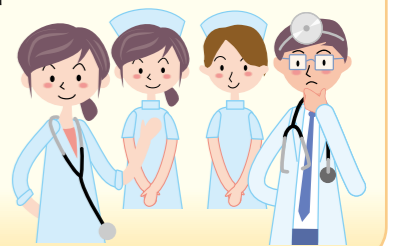
- 全国がん登録(院内がん登録)の推進
- がん登録データの活用、県民に対する周知

がんゲノム医療

- 拠点病院にがん遺伝相談窓口を設置

目標

がん死亡率(75歳未満)を10%減少



がんになっても安心して暮らせる社会づくり

がんと診断された時からの緩和ケアの推進

- 拠点病院に「緩和ケアセンター」機能を担う体制を整備
- 緩和ケアに携わる従事者の資質向上
- 県民に対する緩和ケアの理解促進



相談支援・情報提供の充実

- がん相談支援センターの相談機能の向上(就学・就労・妊娠などの課題に対応)
- がん患者サロン、ピアサポートの充実
- 小児がん患者、家族、がんの親を持つ子どもへの支援
- AYA世代や遺族が集い、支え合う機会の創出
- 国のがんに関する統計データなどを活用した科学的根拠に基づく正しい情報提供

就労も含めた社会的な問題への対応

- 拠点病院および院外の専門家が連携した、治療と仕事の両立支援体制の整備
- 会社の管理者などに対する両立支援およびがんに関する正しい理解の促進
- 治療に伴うアピアランス(外見)の変化に対する支援

がんに関する正しい知識の普及啓発

- がん教育に携わる教員に対する研修の実施により、児童生徒への、正しい知識の普及
- 学校や患者団体などが行う活動を通じ、子どもから大人まで、がんおよびがん患者への理解を深める啓発の強化